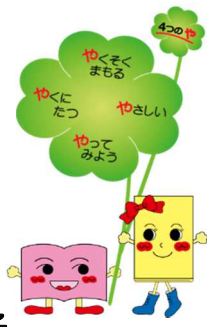


図書館だより

NPO 法人はまでら 4 つのや図書館
第 87 号 令和 5 年(2023) 1 月 11 日



～「本と人、そして人と人をつなぐ図書館」の芽～

館長 由良 芳子



新しい年を迎えました。皆様、穏やかなお正月をお過ごしでしたか。年末には、スタッフが浜寺校区文化会館の掃除を念入りに行い、ウィンドウの飾りつけをしました。毎年、地域の方々による干支の書と門松飾りがウィンドウの主役です。町を行かれる人々の目に止まり、電車の中から、また駅の降りホームからも見えるとの声を聞きます。関心をもっていただき嬉しいことです。

さて、今年で 4 つのや図書館は 13 歳になります。設立時から、ずっと願ってきた「本と人をつなぎ、人と人をつなぐ図書館」の芽が育っています。上記のご支援にも見えますが、日常の図書館内でも次のようなことがありました。

地域の方で、いつも当図書館を利用され、図書館だよりの新着本の紹介を楽しみにして、どんどん読破される F さんと、兼ねてから当図書館に関心をもっておられ、初めて来館された泉北ニュータウンにお住いの館長の知人 Y さんとの出会いの話です。互いの紹介に加えて、Y さんのご息のことや最近読んだ本の話に広がり、F さんが読んで感動した本を紹介されて、Y さんが、シリーズの 3 冊を借りて行かれたのが初日。その 2 週間後にまた再会されると、読後感を交換して、その続きの一冊を借りて…と。爽やかなつながりに発展しています。

また、遠方の方々からは、「4 つのや図書館には遠くて行けないけれど、『お気に入りの一冊』や『新着本』で紹介された本を、近くの図書館で借りて読んでます」とのお便りが届きました。

4 つのや図書館が、本と人を、そして人と人をつなぐ役割を少しでも担えるように、今年も一緒に歩んで参りたいと思います。皆様どうぞよろしくお願ひ致します。



『わたしのお気に入りの一冊』

ご自分のお気に入りの一冊を紹介しあうコーナーです。和泉市の千賀敏弘さんからの寄稿です。

書名：『カレーライスを一から作る』 著者：前田亜紀（ポプラ社）
一紹介者：千賀敏弘 さん一



2015 年、「グレートジャーニー」で有名な探検家・文化人類学者の関野吉晴さんが、勤務していた大学で「カレーライスを一からつくるプロジェクト」を課外ゼミで行い、翌年その様子がドキュメンタリー映画として公開されました。この本は、その内容を映画監督の前田さんが子ども向けにまとめた本です。

関野さんは、ある雑誌社のインタビューで、「このプロジェクトで肝心なのは、“一から”というところなんです。一から何かを始める、根源を探ることで気づきが得られ、世界が見えてくる。カレーライスでも、自分で一からちゃんとやってみようと思えば、何かやるごとに疑問が湧いて、それを自分で調べるようになる。そんな風に、学生たちに、自分で問いを見つけて解くという体験をさせたかった。とくに自然への見方や他の生き物との関係についてじっくり考えてほしかったんです。」と述べておられます。

集まった 100 人以上の学生たちと、9 カ月にわたる試行錯誤を経てカレーライスを完成させました。お米、野菜、スパイスを栽培し、海水から塩を採り、器とスプーンも作り、最後にヒナから育てた鳥を絞めて肉にしました。学生たちが野菜づくりに悪戦苦闘する姿や、食べるために飼育した家畜を殺すべきか悩む姿を通し、「食べる」「生きる」という人間にとって当たり前前の営みを見つめ直していきます。

はたして、おいしいカレーはできたのでしょうか。学生たちにはどんな変化がおきたのでしょうか。

職場体験：浜寺小学校 6 年生 (当図書館にて)

2022 年 11 月 2 日(水) 浜寺小学校 6 年生が職場体験に来館しました。授業時間に合わせた体験のため、作業時間は 9 時 30 分～11 時 30 分。水曜日は 14 時開館なので、開館前の準備作業を体験しました。

6 名の児童が 2 グループに分かれて、図書館のウィンドウを Xmas 用に飾り付けしたり、書棚にある春夏の本を書庫にしまって Xmas のコーナーを設置したり。ウィンドウには、子どもたちの手描きのサンタクロースがいて、若いセンスが可愛く新鮮でした。

他にもパソコンでの本の貸出・返却の処理や、返却処理した本の消毒も体験しました。

質疑応答の時間には、図書館の始まりからの歴史や「4 つのや」の精神のお話などをしました。6 年生の皆さんとボランティアスタッフとの充実した時間でした。付き添いの PTA の方もありがとうございました。



(スタッフ 宮永)

…お詫び…

図書館だより 86 号(11 月 2 日発行)わたしの推しコンクール審査結果の欄<優秀賞>本の帯創作部門誤：中ノ川満さん正：市ノ川満さん(浜寺昭和小 3 年)謹んでお詫び申し上げます。

土肥俊夫先生のご著書(地域コーナー)

図書館だよりでも何度かご紹介している土肥俊夫先生には、当図書館の『歴史探訪研修会』と『子どもと大人の堺・歴史ウォーク』をご担当いただいています。どちらも毎回リピーターの多い研修ですが、当日の資料も説明も、細かく、かつ分かりやすい上に、研修終了後には当日の写真も掲載した小冊子を作成していただけます。一冊一冊手作りの冊子のため一般には販売していませんが、研修会の参加者は希望により購入することができ、このこともリピーターが多い理由のひとつかもしれません。

当図書館には、資料保存の意味も含めて一冊ご寄贈いただき、『地域コーナー』に並べていて、これまでの研修の足跡を辿ることができます。

また、算学や堺の歴史、ウォーキングに関する冊子などもズラリと並んでいます。いずれも土肥先生の手作りで非売品ですが、貸出は可能です。図書館にお越しの際は、ぜひお手に取ってご覧ください。

(スタッフ 赤堀)



兼題「マフラー」

向かひ風挑むはな垂れマフラーの子 ヲウ子
マフラーや手編みに勝る物はなし 直子
マフラーや慣れぬ手つきの自撮りかな 昭義
マフラーの試し編みとは父知らず 幹子
マフラーや姿勢を正す歩道橋 文浩
前かこにマフラー立ち漕ぎの坂道 忍
母編みしマフラー首に風和み 勝義
五右衛門風呂底板浮めて冬將軍 勝子
冬浅し多色刷りなり京の山 ひとみ
実南天零れぬように袋かけ 雅
初めての揃ひのマフラー京を行く 芳子

次回(三月)の兼題は「春風」または自由
*投句締切 二月八日(水)

俳句ができたよ・さらり十選 八十七号
令和五年一月十一日

2023 年 1 月・2 月・3 月の開館日時

毎週水・木曜日に開館しています

◎水曜日 14 時～17 時

1 月: 4 日休・11 日・18 日・25 日

2 月: 1 日・8 日・15 日・22 日

3 月: 1 日・8 日・15 日・22 日・29 日休

◎木曜日 10 時～17 時

(第 2・第 4 木曜日 12 時～)

1 月: 5 日休・12 日・19 日・26 日

2 月: 2 日・9 日・16 日・23 日休

3 月: 2 日・9 日・16 日・23 日・30 日休

2022 年度 NPO 会員募集

2022 年 4 月～2023 年 3 月の会員を募集しています。図書館でも受け付けます。ご支援よろしくお願ひします。

NPO 法人はまでら 4 つのや図書館

◎郵便振込先 00950-9-171544

できるだけ ATM をご利用ください。

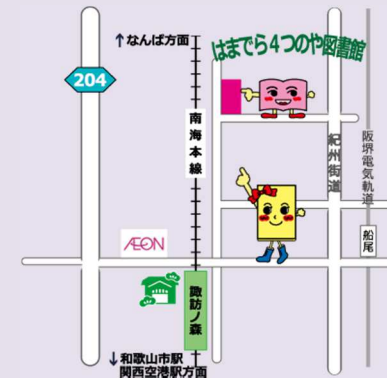
◎楽天銀行 支店番号 253

普通 7225222

協力会員 1 口 1,000 円/年

賛助会員 1 口 3,000 円/年

正会員 1 口 5,000 円/年



URL yottunoya-library.com
Mail yottunoya@hotmail.com

所在地：〒 592-8348 堺市西区浜寺諏訪森町中 1 丁 103-1 (浜寺校区文化会館内) 南海本線諏訪ノ森駅東側線路沿路北へ

連絡・・・<<警報(大雨、暴風、地震、津波、他)が発令されたときは、図書館は休館します。>>

2023.1月の新着本より

当月の新着本のリストと紹介文の一部は図書館受付に掲示しています。ホームページにも掲載しています。

2023.2月の新着本より

ふゆのコートをつくり
石井睦美/布川愛子

思い出のつまったおかあさんのコートが、わたしのコートになったの！雪のふる、しずかな朝です。はやく外に出てあそびたいさきちゃんを、おかあさんは屋根裏部屋へつれていきました。大きな箱をあけると、そこにはおかあさんの赤いコート。着てみるとさきちゃんにはおおきいみたい…。「ミコさんに、したてなおしてもらいましょう」とお店にむかいます。

まめまきバス 藤本ともひこ

今日は節分。ところが、町ではカゼオニが大暴れしています。バスとねずみくんたちは、カゼオニをやっつけるため、豆を持って町に向かいます。豆まき行事にぴったりの絵本です。

感染爆発 見えざる敵=ウイルスに挑む
デイビッド ゲッツ/西村秀一

1918年、インフルエンザウイルスがパンデミックを引き起こしました。日本でも国民の半数がかかり、2年間のうちに約385,000人ものが命を落としたのです。亡くなった人の大半は、若く、健康な人たちでした。本書はおよそ100年前のパンデミックの話ですが、急ごしらえの病院にずらっとベッドが並ぶなど、いままさにニュースで見ているものと同じ光景がそこにはありました。100年前とは比べものにならないスピードで、人や物が行き来する現在、感染症のパンデミックについて、是非、子どもたちに知ってほしいとの思いから、緊急復刊致します。パンデミックは、一度来たら終わりではありません。世代を超えて準備していかなければならないというメッセージを若いみなさんにこそ、受け取っていただきたいと思います。

風とにわか雨と花 小路幸也

ぼくが九歳、姉の風花ちゃんが十二歳になった四月に、お父さんとお母さんは、離婚した。理由を訊いたら「今は説明してもわからないと思うので、言わない」ってお母さんは言った——

じつは、父が専業作家を目指し、仕事を辞めたことが原因らしい。仕事に復帰した母と暮らす小学生の姉と弟は、休みのタイミングで、父が暮らす海辺の町へ行く。そこで出会う人々との交流で、子供たちは成長していく。また、ひとり家で待つ母にも、心情の変化が……。自分に素直に生きようとする男と、その妻、子供たちのイマドキな家族のカタチを、それぞれの視点で繊細に描いた優しい小説を初文庫化！

おすしがふくをかいにきた
田中達也

マグロのおすしがお店に買い物にやってきた！

タマゴ、エビとたくさんあるすしネタから、何に変身するのかな？

身近なものを、本物そっくりの何かに見立てる「みたて」の世界で、楽しいストーリーを作り上げる田中達也の絵本第2弾！

アイスクリームにホットドッグ、ケーキや肉まんが、とってもしリアルな仮想の街で愉快なお買い物を楽しめます。すみずみまで楽しい写真絵本。

にわか魔女のタマユラさん
伊藤充子/ながしま ひろみ

「喫茶たまゆら」は、並木通り商店街にある、町でひょうばんの喫茶店です。ある日、店主のタマユラさんは、お客のヨルさんというおばあさんから黒いカバンをあずかりました。おそろおそろ開けてみると、はいっていたのは、なんと「魔女の持ちものセット」。しかもタマユラさんは、気づかないうちに、魔女のふしぎな能力をみにつけていました。相手が動物でも植物でも道具でも、名前をつけただけで、たちまち話せるようになっていたのです！

とつぜん「にわか魔女」になってしまったタマユラさんと、カバンからとびだしてきたなかまたちとの、にぎやかな毎日がはじまりました。

図書館の神様 瀬尾まいこ

思い描いていた未来をあきらめて赴任した高校で、驚いたことに「私」は文芸部の顧問になった。…「垣内君って、どうして文芸部なの？」「文学が好きだからです」「まさか！…清く正しくまっすぐな青春を送ってきた「私」には、思いがけないことばかり。不思議な出会いから、傷ついた心を回復していく再生の物語。

100万回生きたきみ 七月隆文

美桜は100万回生きている。さまざまな人生を繰り返して、今は日本の女子高生。終わらぬ命に心が枯れ、何もかもがどうでもよくなっていた。あの日、学校の屋上から身を投げ、同級生の光太に救われた瞬間までは。「きみに生きてほしいんだ」そう笑う光太に美桜はなぜか強烈に惹かれ、2人は恋人に。だがそれは偶然ではない。遙かな時を超え、再び出逢えた運命だった——。100万の命で買った一途な恋の物語。

ペティおばさんの台所 竹中マユミ

ミルは、おいしいものにとっても鼻がきく女の子。おにぎりの中の具も、クンクンかいで当ててしまえるくらいです。そんなミルが、おばあちゃんのおうちに引っ越すことになったのですが、どうもおばあちゃんの台所からは不思議ないい匂いがするのです。それはミルにしかかからない匂いのように……。お料理やおかしをつくるのが上手だったおばあちゃんの思いがしみこんだ台所でおきた素敵な出会いを、あたたかくえがく絵本です。おはなしのなかでつくろクッキーのレシピ付き。

クーちゃんとぎんがみちゃん
ふたりの春夏秋冬
北川佳奈/くらはしれい

カカオの町でくらす、板チョコレートのクーちゃんと、仲良しのぎんがみちゃん。春は散歩と贈り物、夏は海水浴、秋は落ち葉を踏みしめて踊り、冬はがらがらを引きに商店街へ。四季を通じてくり広げられる、とろけるような楽しい毎日。ほっこり温かい世界へ誘います。

雲を紡ぐ 伊吹有喜

羊毛を手仕事で染め、紡ぎ、織りあげられた「時を越える布・ホームスパン」をめぐる親子三代の「心の糸」の物語。いじめが原因で学校に行けなくなった高校2年生・美緒の唯一の心のよりどころは、祖父母がくれた赤いホームスパンのショール。ところが、このショールをめぐる母と口論になり、美緒は岩手県盛岡市の祖父の元へ行ってしまふ。美緒は、祖父とともに働くことで、職人たちの思いの尊さを知る。一方、美緒が不在となった東京では、父と母の間にも離婚話が持ち上がり……。

「時代の流れに古びていくのではなく、熟成し、育っていくホームスパン。その様子が人の生き方や、家族が織りなす関係に重なり、『雲を紡ぐ』を書きました」と著者が語るように、読む人の心を優しく包んでくれる1冊。

はい、総務部クリニック課です 藤山素心

入社7年目の松久奏己は、地味に目立たぬように仕事をしてきたはずだった。しかし、社長肝いりの新部署へ異動になり、変わり者でイケメンな医師、森琉吾と、チャラ系ホスト顔の薬剤師、眞田昇磨と働くことに！異動初日から緊張の連続でいつもの困った症状が現れる——。会社での困りごと対処法や、体調不良へのお役立ち情報も満載の、ちょっと元気になれる物語！

ぼくらはうまいもんフライヤーズ
岡田よしとか

フライたちが野球をしたら…

食べものユーモア絵本！「やきゅうやれへんか？」と空き地で声をかけたのは、エビフライとアジフライ。フライドポテトやコロケ、たいやきやたこやきまで続々とやってきます。さあ、フライなべ監督のもと、猛特訓開始！

子どもの教養 クイズで学ぼう季語の世界
齋藤孝

この一冊で語彙力、表現力がアップ。季語にふれて、知性や感性をみがこう！！

多くのベストセラー作品をもつ齋藤孝氏による子ども向け読み物。「東から吹いてくる『東風（春）』は、何を知らせる風？」「昔、『お年玉（新年）』としてわたされたものは？」「かじけ猫（冬）ってどんな猫？」。さあ、答えはわかるかな？

季語が生まれた背景やその意味をうんちくたっぴりに解説する。古来、日本人が大切にしてきた季節感や自然をうやまう気持ちにも触れてみよう。語彙力、表現力はもちろんのこと、理科や社会、美術や哲学まで幅広いジャンルにまつわる知識がクイズをとおして習得できる。俳句を学び始める小学生は、ぜひ「朝読」用にゲットしてほしい。ブームにのって俳句の世界に興味を抱いた大人の読者にもおすすめの一冊。

イマジン？ 有川ひろ

「朝五時。渋谷、宮益坂上」。その9文字が、良井良助の人生を劇的に変えた。飛び込んだのは映像業界。物語と現実を繋げる魔法の世界にして、ありとあらゆる困難が押し寄せるシビアな現場。だがそこにいたのは、どんなトラブルも無理難題も、情熱×想像力で解決するプロフェッショナル達だった！有川ひろが紡ぐ、底抜けにパワフルなお仕事小説。

海が見える家 旅立ち はらだみずき

父が遺してくれた海が見える家が台風により被災後、追い打ちをかけるようにコロナが蔓延してしまう。思うように日常生活をとりもどせない文哉は、農業の師である幸吉がビワ畑で倒れていたあの日思いを馳せる日々を送っていた。心配する和海のすすめもあり、文哉は旅に出ることにした。向かったのは、幸吉の親友、イノシシの罫猫の達人である市蔵の暮らす集落。山に入り自然薯を掘ったり、斧で薪を割ったり、自然に抱かれて過ごすうちに、文哉は求めていた自分なりの答えを見いだしていく。そして、新たな決意を胸に抱く！

※掲載している書影、明記のない紹介文は版元ドットコム(https://www.hanmoto.com)より引用しています